札幌大学地域連携センターニューズレター

Sapporo University Regional Cooperation Center Newsletter

Vol.35-2　2024.10.10

能登半島地震の震災ボランティア活動に参加した学生6名からのコメント

●法学専攻3年　田村（たむら） 迅（じん）さん（野球部所属）

今回、人生で初めて震災ボランティアの参加をさせていただきました。
最初に七尾市を訪れて思ったことは、あの地震から半年以上経っているのに、道路はコンクリートがぼこぼこしていたり、家屋は全壊や半壊状態のところがたくさんあったりして、未だに全然直っていないことに驚きました。
1日目の一本杉マルシェでは、地域の方々のあたたかさと強さを感じました。建物や道路の修復はまだ途中にも関わらず、一本杉のために、七尾のために多くの方々が力を合わせてイベントをつくられていることがわかりました。また、出店の準備や片付けのお手伝いをさせていただいた際に、地域の人々とたくさん交流でき、仲を深めることができて嬉しかったです。
2日目は、一本杉通りにある商店の2階から、棚などの重いものを1階に下ろす作業をしました。私は野球部に所属していて体力には自信があったので、たくさん貢献することができました。活動を終えた後、家の方が『ありがとう！とても嬉しい！』と喜んでくださり、お役に立てたことでこちらも嬉しくなりました。
今回のボランティア活動を通して思ったことは、地震に限らず『災害が来た時の準備の大切さ』や『起こった後の避難経路の確認』や『防災リュックを準備する』ことがとても大切だということ。いつ来るか分からないときのため、最善の準備をしていくことで多くの方の命が守れるのではないかと思いました。私は将来、消防士になりたいと思っているので、今回のボランティア活動の学びを活かし、夢に向かって頑張っていこうと思っています。
今後は、ボランティアとして実際に現地に行かせていただいたからこそ、現地で見た地震の恐ろしさやそれを見た時の自分の感情を必ず忘れないで生活していきたいです。
貴重な経験をさせてくださってありがとうございました。

＊CDL：キャリアデザインラボ　→

●経済学専攻2年　伊達（だて） 誠真（せいま）さん（CDL所属）

ニュースでは被害の大きい地域についての報道が多かったので、七尾の方は多少の被害なのかと思っていたけれどそんなことはなく、実際に現地に足を運んでみると想像の何倍も建物が壊れてたりと被害が大きいことがわかった。しかし、住民の方々は気落ちして元気がなくなってる訳ではなく、困難な状況でも住民同士で協力して復興のため前向きに取り組んでいるところがとても印象に残っている。
家の整理などに人手が必要な高齢者の家庭も多いので、僕らのような若者で家財の運搬など力のいる作業を手伝えてよかった。

●リベラルアーツ専攻1年　高田（たかだ）　航士朗（こうしろう） さん（CDL所属）

私は今までの人生において、大きな震災などの自然災害を経験したことがありませんでした。
七尾市に行くと聞き、自分で調べてみると、1番被害が大きかった地帯ではなく、また震災から半年ほど経っていたため、テレビ等で見る悲惨な状態ではないのではと思っていました。
現地に着いて町を少し周りましたが、古い建物は崩れていたり、道が少し歪んでいたりしましたが、全体として見ると8月段階では復興もそれなりに進んでいるのかなって感じました。しかし、実際に家屋清掃のために家の中に入ったとき、外見はそこまでダメージがあるようには見えなくても、屋内は震災の影響でモノが散乱していたり、人ひとりではなかなか手が付かない状態でした。私は2つの住宅にしか入りませんでしたが、半年経っていても被災地はまだまだ人手を必要としていることを知りました。また、家屋清掃が終わった時に家主の人にとても感謝されました。そこで私は少しは人の役立つことができたのだと実感しました。
また、お世話になったユナイテッド・アースの人達には防災の重要性を教えてもらいました。自然災害はいつ起こるか分かりませんし、常日頃から準備をして怯えている必要はないですが、少しでも防災グッズを家に置いておくだけでも被災した時にとても役に立つと聞きました。実際に私も飲料水や乾パンなどのちょっとした防災グッズを家に置きました。このちょっとしたことをするしないが、被災した時に大きな違いを生むのだと思います。
今回震災ボランティアに参加したことで、自分の災害意識に変化がありましたし、改めてこれからも様々なボランティアに参加して行きたいと思いました。

（裏面へ続く）

発行：札幌大学地域連携センター(RCC)
〒062-8520　札幌市豊平区西岡3条7丁目3番1号　TEL：011-827-5877

過去のニューズレターはこちら ➡

●リベラルアーツ専攻1年　竹内（たけうち） 花月（はるな）さん（CDL所属）

震災ボランティアを通して、行くことでしか分からないことが多くあるということを学びました。
実際に行ってみて、建物が意外と綺麗だなと思っても中が酷い様子だったり、進んでいるように見えても放置されていたりと、作業が進んでいないことがわかりました。
能登島では孤立してる場所なため忘れさられており、住んでも大丈夫か、そうでないかの張り紙がされず、住んでも大丈夫かわからずに暮らしている人がいると聞き、とても印象に残りました。テレビやニュースだけでは見えない部分が多くあるということを学びました。
また、被害があった洋服店の片付けをさせていただいたのですが、部屋が暑く、ものも多く、休憩しながらでもとても大変でした。複数人いてようやく終わり、一人や二人で簡単にできるものではないということ、震災後はすぐに手を付けられない、思い出があって簡単には捨てられないなど多くの理由や問題があることを知ったのと同時に、ボランティアはそういった人たちにとってとても大事な存在だと感じました。そして終了後、洋服店の方から感謝されたのがものすごく嬉しく、誰かの力になれたのだと実感ができ、とてもいい経験になったと思います。
今回の経験を経て、被災地の方々にとってボランティアの存在がとても大きいことを実感しました。

また、体力が続かなかったり、今回は恵まれている環境で、自分が経験した場所より被害がもっと大きく危険な場所もあるため、まだ知らないこと、経験できてないこともあると思いました。
ボランティアを通して、震災があったときに周りの人と助け合いができるように、人との繋がりを持つことが大事だと感じ、近所の方などとの日頃からのコミュニケーションを意識するようになりました。
また、防災についても普段は意識しないのですが、これを機に防災グッズなどの準備を意識できるようになり、今回のボランティアはとてもいい経験ができ、今後もこの経験を活かしていきたいなと思います。

●経営学専攻1年　滋野（しげの） 冬獅（かずし）さん（CDL所属）

ボランティアに参加する前は、ニュースのみでしか現地の様子を把握しておらず、復興の進度や住民の方々への理解は十分ではありませんでした。今回のボランティアは、現地の様子や雰囲気を学びたいと思い参加しました。活動の中で、現地の方々と交流する機会が多くあり、住民が主となり復興させるという活気が強く印象に残っています。
これからは、この活動で被災地の全てを理解した気にならず、自分たちが暮らす地域での災害対策に活かします。

●リベラルアーツ専攻1年　尾形（おがた） 結菜（ゆいな）さん（CDL所属）

被害が大きいと聞いていていたが、全壊の建物がそのままになっていたり、行政が入ってこない島があることに驚きました。
始めは自分の経験を積むために参加したのが、1番の理由でした。が、現状を見て、ユナイテッド・アースさんの話を聞いて、少しでも復興の助けになればいいなという思いが強くなりました。
炎天下の中の作業のしんどさや、被災者の方の思いなど、実際に体験したり聞くことで、震災の大きさを感じることができました。これからは防災に関するイベントに積極的に参加するなどして、自分の防災意識を高めて行きたいと思います。